２０１９年6月 10 日

キリスト教の普及率が世界的に見ると少なくとも３0%以上と言われているが日本では 1%以下となっているようだ。最近キリスト教関係者と聖書の神「エホバ」についていろいろと話を聞いている。日本のキリスト教普及率の低さについて最近この原因を考えている。どうもこの原因は一神教と多神教の違いではないかと思えてきた。キリスト教の神は世界を神が作ったとされ、自然も神が作り、そこにある生物も神が最初に作ったとされる。多分他に現れる神も悪魔も結局のところ神が作り、最後の人間も神が作ったとされているようだ。ところが日本では確かに最初日本の大地を神が作り、最初の人間も神が作ったが、そのあとは成生に任せているように思える。多神教で生まれてくる神は最初の神が作ったのではなく、人間が作ったのではないかと考える。例えば熊は人間以上の身体能力があり、恐ろしいもののだ、このためこうした人知を超えるものを神として読んでしまった。熊の神様だ。このように人知をこえたんものをすべて神として識別し敬ったり、恐れたりする対象としてしまった。すなわち八百万の神は殆ど人間作ったものとなった。このようにほとんどの多神教の世界では神は人間が作ったものとなっている。ここがキリスト教のような一神教、すなわちすべてが神によって作られた世界と認識している宗教と、日本のような人間が神を作ったと思える多神教との大きな違いがあるように思える。キリスト教では人間は神が作ったものであるから、神が気に入らなければすべてを滅ぼしてやり直すことになるが、人間作った多神教の世界ではそうはいかない、つまり人間社会を支配する者がいないのだ。こうした考えになじんでいる日本社会に一神教的な神はなじまない。勿論昔から日本人は賢かったことも一つの原因かもしれないが根本的なところでは前述した神の認識の違いが大きな影響を与えているのだと思う。多分キリスト教圏の人々より、日本人の方が自然を愛する気持ちも強いのだろうと思う。自然環境を見て自然の中に人の在り方を考えたりするのもこうした考え方の大きな差があるのではないかと思う、キリスト世界では自然は人間がこんとろーるする対象だが、日本人の世界では人は自然に生かされているという考えもこうしたキリスト教世界との違いが表れているのではないかと思う。

まだ以上の考え方がすべてまとまったわけではないのでもっとよく考えていかねばならないと思うが、この考えは世界で戦争を遂行する連中はキリスト教的な考えかた、さらに一神教を信じている連中が起こしやすいのではないかと思っている。この点ももう少し詰めていきたいと思います。